

10月定例会議議事録

1 日時及び場所

10月22日（火） 1600～1830 ウッドオフィス部外会議室

2 出席者（8名）

吉田明生
名取禎
井上幸珠
杉山理
東谷淳
渡邊宏
岡田満
濱崎哲郎

3 要旨

社員総会に引き続き、今後の事業計画の具体化の方向性について、討議した。

① 出資金（基金）

- ・設立当初からの経費で未提出のものは細大漏らさず提出し、記録として残しておく。
- ・基金の出資について、各会社等の経理手続きと整合を図って記録を残すことが必要であり、適切な手続き（要領）について、渡邊税理士が検討する。
- ・出資金の取扱い等については、研究所と社員が覚書を締結する。

② ボランティア活動

- ・明日、10月30日、幸珠院チームがボランティアで長野市に水を届ける。
- ・自治体と連携を図って、できるだけ早い時期（目途は11月中）から、研究所活動を開始する。
- ・営業活動とは切り離して実施する。連携する場合は、誤解を招かないように十分に配慮しつつ実施する。
- ・幸珠院のメンタルケアチームは、井上幸珠、看護師、補佐の3人のチームで実施する。

(補佐する人はいるが、メンタルケアの専門的知識を有する者は少ない。)

- ・ 研究所ボランティア活動への参加者を公募する。
- ・ 必要に応じて、ボランティア団体と連携した活動を考慮する。
- ・ 活動内容は、情報入手アプリの紹介と入力講習、情報入手要領の普及、避難場所と備蓄物資の紹介、提供、パスポート型小冊子の教育、AED の使用方法、防災グッズ紹介と使用方法の講習他、要検討。
- ・ 吉田が、次回会合で企画（活動地域を含み）を提示する。

③ 営業活動

- ・ 車両一台で各地を巡回する里案は、実現可能であり、できるだけ早期に着手する。巡回する地域が決まれば、廣瀬商会他に依頼して、防災グッズの準備は手当てできる。
- ・ 営業活動に連携した防災普及活動は重視して行う。
- ・ おみくじ工房は、研究所と商標使用料（防災グッズ展、防災グッズ大賞、災害防止研究所）に関する契約を締結し、独自に営業活動を行う。
- ・ 研究所は、防災グッズを棚組みし、百貨店等と契約し営業活動を行う。その際のフィーは、東谷が提示する案に基づいて、決定する。
- ・ ブレスレットの販売は、幸珠院が個人に対して行う。研究所社員は、次回会合時カウンセリングを行って購入するとともに、個人顧客を紹介する。
- ・ 当面は活動経費を捻出することが目的であり、人件費等所要経費を最低限に抑えることが必要で、社員のボランティア的な活動が求められる。
 - おみくじ工房は、可能な範囲で、できるだけ大きい率でフィーを戻すように検討する。

以上